令和３年　２月１９日(金)　午後３時～

諏訪市文化センター・第一集会室

**第７回 　諏訪地域の高校の将来像を考える協議会　議事録**

**次　　第**

１　開　会

２　会長あいさつ

３　報　告

（１）住民意見募集の実施結果について

４　協議事項

（１）「諏訪地域の高校の将来像について意見書（最終案）」について

５　その他

６　閉　会

【議事録】

**１　開　会**全体進行（事務局）

　・会議は公開　マスコミ各社、一般傍聴希望者を認める（傍聴者６名）

　・欠席者

(敬称略) 茅野市教育長 山田　利幸

　　　　 下諏訪町教育長　松﨑　泉

茅野市商工会議所　会頭　細田　秀司

下諏訪町商工会議所　会頭　小林　秀年

公立諏訪東京理科大学　学長　小越　澄雄

　　　　　　下諏訪町青少年健全育成協議会　前会長　本山　公之

　　　　　　元県立高等学校　校長　名取　孝三

八ヶ岳中央農業実践大学校　農産園芸部長　奥　久司

諏訪郡市中学校長会　会長　名取　秀樹

諏訪地域振興局長　小山　靖

以上10名

（諏訪市教委）

定刻となりました。皆様お忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。只今より「諏訪地域における高校の将来像を考える協議会」の第7回目となりますが、進めて参りたいと思います。本日の会議も公開で行います。マスコミ各社の他、一般の傍聴希望者の入室を認めていますので、予めご承知おきをください。

・欠席者確認

・資料確認

①協議会次第　②「諏訪地域の高校の将来像についての意見・提案(案)」の住民意見募集について(実

施結果)　③諏訪地域の高校の将来像について意見・提案(最終案)(事前配布)　 ④「高校の将来像

についての意見・提案(案)」への住民意見に対する対応(幹事会における協議結果)

**２　会長挨拶**

|  |
| --- |
| ○会長　　金子ゆかり　諏訪市長皆さんこんにちは。コロナ等々それぞれで厳しい状況の最中、また議会等々が始まっておりまして、時節柄大変お忙しい中、第7回を迎えました「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会」の開催を申し上げましたところ、委員の皆様にはご出席を賜りまして誠にありがとうございます。令和元年の10月8日に第1回目の協議会をスタートして、およそ1年半をかけて検討、研究、審議を行ってまいりました。この協議会の大きな目標の一つであります、県教育委員会、県への意見書の提出、この最終案の審議にたどり着くことができています。本日は今まで、様々な関係の皆様のご意見をお聞きしながら、この協議会もそうですが、幹事会の皆様にもより以上の話し合いや検討を重ねていただきまして、最終案の検討を本日させていただくことになりました。これまでのご努力に感謝申し上げます。本日の議題を進めて参りますが、今まで通り忌憚のないご意見をお寄せいただき、より良い最終案になるべくご審議の方をよろしく申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。 |

３　報　告

|  |
| --- |
| (司会)　前回第6回目の協議会におきましてご協議をいただいた、意見・提案の案につきまして、住民意見募集を行いました。その実施した結果について、事務局から報告を申し上げますので、お聞き取りください。 |
| (事務局)　住民意見募集の実施結果についてのご説明をいたします。本日机上にお配りしました、A4 1枚の「諏訪地域の高校の将来像についての意見・提案(案)」の住民意見募集についての実施結果をご覧いただきながらご説明をさせていただきます。　まず、1の意見募集期間についてでありますが、令和2年12月18日から令和3年1月18日までの1ヶ月間、6市町村のＨＰに掲載しまして、それぞれの教育委員会を窓口として実施いたしました。2番目の意見提出資格でございますが、(3)のところに、前回の協議会でご意見をいただきました、関係市町村内の学校を卒業した者、こちらを資格として追加したうえで行っております。4番目になりますが、意見シートの提出方法としましては、電話、口頭での受付を不可としまして、郵送、持参、ＦＡＸ、電子メールにて受付を行った所でございます。5番目、意見提出結果です。こちらですが、1団体から2件のご意見をいただきました。なお、いただいたご意見の内容とその対応につきましては、この後の協議事項で詳細をご説明いたします。 |
| (司会)　お聞きとりをいただきました。どのような意見が出されて、どのように反映したのかというのは、この後、大きな4番の協議の中でご説明等申し上げますので、そちらでお聞き取りいただくとして、全体の流れについて何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。　続いて次第の4、協議事項に入ってまいりたいと思います。協議事項の進行につきましては、この協議会の設置要綱の規定によりまして、金子会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。 |

４　協議事項

(１) 「諏訪地域の高校の将来像について意見・提案(最終案)」について

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 内　　　　　容 |
| 司　　会 | それではしばらくの間、進行を務めさせていただきます。本日は当協議会も最終回となりますが、諏訪地域の高校の将来像についての提案の最終案についてご協議をいただきます。前回の協議会におきまして、意見、提案の素案でありますが、委員各位からご意見をいただき、修正をさせていただいた箇所、また実施した地域住民の皆様から寄せられた意見の内容と、それに対する幹事会としての考え方について事務局より報告をいただきたいと思います。 |
| 事 務 局 | それでは、「諏訪地域の高校の将来像についての意見・提案(最終案)」につきまして、ご説明いたします。まず初めに、先程ご報告いたしました「住民意見募集」においていただいたご意見の詳細と、対応についてご説明いたします。事前配布いたしました資料になりますが、「高校の将来像についての意見・提案(案)への住民意見に対する対応(幹事会における協議結果)」Ａ4 のペーパーをご覧ください。住民意見募集においていただきました2件のご意見の内容とその対応について簡単にご説明いたします。　1つ目は、意見・提案書の「第4章の2　諏訪地方の高校に望む学び」の部分に関連し「現状の高校における教育環境の不備や教育予算の不足について、協議会で具体的に検討し県に提案して欲しい」というご意見でありました。この意見に対し幹事会では、本協議会では、「諏訪地域に望まれる将来の学びの姿を提案していく」ことを役割としており、「いただいたご意見は、今後の高校教育において大事な視点であるものの、将来の学びの姿を実現するための手段や制度については、県教育委員会による検討に託すことが妥当である」との考え方から、ご意見の受け止めに「留めさせていただく」こととしました。　2つ目は、意見・提案書の「おわりに」の部分に関連し、「県がこれから高校再編を進めていく際に、同窓会を始めとして地域からの建設的な意見に耳を傾け、合意のもとに再編整備を進めていくよう、その文言を入れて欲しい」というご意見でありました。この意見に対し幹事会では、本協議会としましても、様々な団体等からの意見聴取を行った上で、この意見・提案書を取りまとめた経過がございますので、資料にありますように「諏訪地域住民の建設的な意見を尊重する中で」という一文を「おわりに」の部分に追加することとしました。　以上が、住民意見募集の意見の対応でございます。それでは続きまして、前回の協議会におきまして委員の皆様からいただいたご意見をもとに、意見・提案書の最終案で変更した主な箇所をご説明いたします。　こちらは事前配布いたしました「諏訪地域の高校の将来像についての意見・提案書(最終案)」をご覧いただきながらご説明いたします。　まず、1ページの「はじめに」でありますが、8行目に「地球温暖化等に起因して増加する」という文言を追加してございます。　続いて、16ページになりますが、「第4章　諏訪地域に望む学びについて」の上から2行目の「あり方について」という部分に、前回は「具体的な高校の配置」という県教委の実施方針を引用した文言を入れておりましたが、誤解を招くことがないようにするため削除いたしました。　同じページの「2　諏訪地方の高校に望む学び」の(5)でございます。こちらの方の後段に、「生徒がもてる力を最大限発揮できる特別支援教育の充実を目指した学び」という学びの仕組みということで、こちらは前回の協議会においてご意見をいただきましたインクルーシブ教育、こちらの方の文言を追加させていただいております。　続いて、20ページの「おわりに」ですが、先程ご説明しました、住民意見募集のご意見をいただいたものを、「おわりに」の部分の下から6行目、後段の方に「そのためには、諏訪地域住民の建設的な意見を尊重する中で」という一文を追加しました。　その他、協議会の回数などの軽微な修正をさせていただき、お手元の意見・提案の冊子を最終案としてまとめてございます。説明は以上となります。 |
| 司　　会 | ありがとうございました。それでは、ただ今の修正等につきまして、委員の皆様からご質問がありましたらお願いいたします。　ご質問等は無いと受け止めさせていただきました。最終案そのものにつきまして、今まで長きにわたりまして目指すべき高校の将来像について、保護者、ＰＴＡ、子どもたち、関係者、住民の皆さまご意見をお聞きしながら練り上げてまいりました最終案となります。全体を通しまして、皆様からご意見等いただきたいと思います。事前に配布させていただきましたので、概略目を通していただいてきていると思います。感想でもよろしいですので、ここでお話したいことがあれば、遠慮なくお願いします。 |
| 　委　　員 | 　今振り返ってみますと、県から依頼がありましたこの事について、難しさがあり険しい道のりであるなと当初思っていました。しかし避けては通れない道でもあることを思っていました。そうした中、諏訪地方の高校の将来像を考えることは、間違いなく諏訪の将来、未来の子どもたち、諏訪の未来そのものを考える会であったと思っています。委員の皆さんからの色々な意見をお聞きしながら、それぞれの思いを受け止めた1つの形が、この最終案に詰まっているなと強く思っています。今日は県の方にも来ていただいておりますが、諏訪の思いを是非くみ取っていただいて、新たな高校を作っていくその際に、是非リーダーシップを発揮していただき、地域の声にも耳を傾けながら進めていっていただきたい。 |
| 司　　会 | ありがとうございました。他にいかがでしょうか。教育界の関係からご発言いただきましたが、産業界の皆様からはどうでしょうか。 |
| 委　　員 | 　一通り読ませていただいて、まとまっていてこれでよろしいかなと思います。という感想です。 |
| 司　　会 | ありがとうございました。 |
| 委　　員 | 産業界というより一住民としてですがまず一つ、住民の意見募集について1ヶ月間で1団体から2件というこの結果が非常に私は残念で、やっぱり一般の住民は、意識していないのですね、きっと。私もその一員ですが、もっと意見・要望が出ても良かったのではないかと思いますが、これはたぶん住民の意見を求める方法が悪いと言いませんが、周知徹底の方法がちょっと足りなかったのではないかと思います。それからこの協議会の趣旨ではないのですが、諏訪地域の住民が一番知りたいのは、はっきり言って統廃合にまで踏み込んで提案できる協議会ではないのですが、この学校が無くなるという可能性、そこが一番気になるところだと思うのです。この協議会がそこまで踏み込んで提案をするものではないと承知していますが、早い段階で県が方向性を決めていただいて、早く住民や学生に知らしめていただきたいと思っています。 |
| 司　　会 | 住民のみなさんの意見が1団体2件という結果でありましたけれど、事務局の見解はどうですか。 |
| 事 務 局 | 　ご意見ありがとうございました。本来ですと当初、地域の皆さん方にお声掛けをして、市町村毎にお集まりいただき、直接対面してご意見を伺うという方針でいましたが、コロナ禍という中で、このような方法を取らざるを得ないという結果になりました。周知が足りなかったと言うご意見は、もっともかなと思っています。そして、意見書の19ページの所に、「今後の地域との役割について」という章があります。この章の最後の結びの所にありますが、今回のこの協議会の役割は、この意見書の提出をもって終わる訳でございますが、今後もどのような形になるかは別として、様々な議論を進めていく必要があるという認識を表記してあります。今、委員さんからお話がありました通り、この意見書の次の段階としては、県教委からつぎのステップの案が示される段階がありますので、またその節には県教委の方で住民の意見、反応を聞いていく場面が来ようかと思います。その中でまた更に地域の方のご意見を聞かせていただくことと捉えていますのでご承知ください。 |
| 司　　会 | よろしいでしょうか。貴重なお気持ちをお聞かせいただきありがとうござました。今後この高校の再編計画については、県教委を中心に進んでいくものと承知をしています。そうした時に、そのエリア全体で提供される高校教育の中身、質のあるべき姿を今まで議論してきました。それをまとめたものが今回です。いろいろと将来に渡って議論を重ねる中で、常に原点に返ってここに照らし合わせられる、ものさし的な存在である意見書の最終版になれば良いなと思って、私も皆様もやってこられたと思います。そんな心持で引継ぎがなされればと思っています。 |
| 委　　員 | 私、高校の校長をやっています、また、諏訪地域の出身ということで、一住民としても、この諏訪の地域が将来どうなるかということは、個人的には考えていました。この地域協議会の結果で、諏訪全体として諏訪の高校はどうなるのかを考えて来られ非常に良かったと思っています。各市町村がと言う所もあるのですが、今ある学校の市町村だけでなくて、全体として県教委の方で考えていただき、今後諏訪地域を守るそういう高校を育てる、そういう高校を考えていただければと思います。この会に出席させていただいてありがとうござました。 |
| 司　　会 |  ありがとうございます。まだ時間もありますし、折角ご出席されていますので、皆様から一言いただきたいと思います。 |
| 委　　員 | 　具体的に高校の名前を上げてということがケースとしてはあると思いますが、そもそも諏訪のどういう高校ということではなかったということです。様々な団体から、いろいろな立場からの意見をいただく中で改めて思うのは、諏訪というこの圏域は、いかに自然の部分、産業の部分、地域の部分など、子どもを育てていく上で大事な基盤が山ほどあります。その位置づけの中で子どもを育てていくことが一番大事ではないかということを、色々な面で描いて見せたのではないでしょうか。いきなりどの高校どの高校ではなくて、むしろ諏訪は子どもにとってどういう所か、人間にとってどうなんだ、それを描いて見せた、私はそう思っています。そこからのスタートで、確かに遅いかもしれませんが、やはりそれは必要ではないか。今後どういう高校かという議論があるかもしれませんが、おそらくそれがベースになって、ここに書いてあることが生きてくるのではないか。諏訪は小・中学生もそうですが、高校生がしっかり育っていく上で大事な基盤がある、そんなことをつくづく思いました。 |
| 司　　会 | 　ありがとうございました。 |
| 委　　員 | 　これまで出席させていただいて、議論を通して感じたことと言いますか、印象に残ったこととして、各学校の特色ある、あるいは魅力的というワードです。この点は大変印象に残っています。これから少子化ということの中で、この提案書を見させていただいて、特に5章のところの1の都市存立の広く大きな学校の設置が求められるということ、確かに少子化になって規模を小さくしていく部分があって、募集規模が小さいところは小さいところ、大きい所はきちんと大きくして、そういうメリハリをつけて、それで生徒の選択肢を広げていく。大きいところは大きい所で、いろいろな連携に基づいた高校間の質の高い教育機会が望まれるのではないかと感じました。特に、私立がむしろそういう傾向があろうかと思うのですが、文武両道と言いますか、そのような形の中で、それぞれに色濃くして、公立高校もそういうことがこれから大きな規模あるいは小さい規模で考える。大きい規模できめ細かに共有することは可能ではないかと思います。住民の中の意見で、私は前回質問をさせていただいた1クラスの人数規模ですが、このことは国が定める制度だという事ですが、地域の特色を求めるということであれば、そこを思い切って意識し、教員の1人当たりの受け持つ生徒数を小さくして、相当きめ細かくするようなことがあってもいいのではないかと思います。国の決められた制度の中で、一地域として考えられること、これからは限界を生じるのではないかとも思っています。 |
| 司　　会 | 　地域の代表としてどうでしょうか。 |
| 委　　員 | 　こんにちは。前任者の任期途中から引き継いで会議に参加させていただいています。通算7回という沢山の協議会を経て今日にたどり着いたのではないかと思います。お疲れさまでした。この資料を拝見させていただきましても、やはり諏訪という地域が、大変素晴らしい地域資源、そういったものが教育資源となって、健やかな子どもたちが育ってきたのではないかなとつくづく感じました。やはりそれでもこのような協議会を持たなければならない、少子化という現象に深い問題があります。そのような根本の問題をしっかりと解決するために取り組んでいかなければならないと思いました。また、各学校に教育目標、方針等に触れてありますが、私もＰＴＡ連合会に参加させていただきながら、県の教育方針などに触れさせていただいていますが、私の子どもだった頃の時代とは大きく変わって、今でいう所のゆとり教育というものが、益々加速しているのではないかということを感じる機会がありました。やはりゆとり教育というものは、個性のみならず、奥行きのある子どもたちを教育するための目標だと思っています。ですので、その所も幅広く、個性のみならず奥行きのある子どもたちが、地域から育っていく事を心から願いまして感想とさせていただきます。 |
| 委　　員 | 　この将来像の最終案をしっかりと読ませていたただきましたが、良くしっかりとまとめられていると思います。ここに書かれていることが、実現されて行けば、諏訪地区の高校は魅力ある学校に更になっていくと考えます。「はじめに」の所の真ん中にあります、平成25年に県教委で高校改革を、「少子化に対応する単なる縮小・統廃合ではなく、新たな学びへと改革するための機会と捉え」とありますがまさにその通りだと思います。今回の諏訪地区の高校の改革の中で、一部の学校を統廃合するようなマイナーチェンジではなくて、全ての学校をしっかりと細かい見直しをして、全体をみたらモデルチェンジされた、諏訪の学校は非常に魅力ある様々な学校がある、そんな将来像であると思います。そうしていかないと、やはり他地区に流れていってしまうのではないかと思います。これが実現されれば良いなとつくづく思っています。 |
| 委　　員 | 　途中から参加させていただいて後半からになりますが、原村の子どもたちは義務教育を修了する時点で、学びは全て原村から外へでます。いろいろな学びや経験を通して、また村に帰ってくるという状況です。その最初の段階において、今さまざまな子どもたちがおりまして、またさまざまなニーズ、多様性にいかに対応していけるかということを私は考えてみたいと思っています。イメージとしては、諏訪には現在幾つかの高校がありますが、諏訪には名前をつければ大きな諏訪高校が一つあって、その高校の中にこの分野でこういう教室、高校があります、またこういう分野でもこういう場所があるよ、というようなイメージで議論されてきているのかな。折角高校が特色を持つということは、諏訪全体の高校を視野に入れてまとめた抽象的な捉えにはなってしまいますが、集合体のようになっている高校があり、それぞれの力が発揮できる分野に沿っての教室なり場所があるそんなイメージを持たせていただきました。そういうことであれば、原村の子どもたちはどこにいっても安心して力を出せて、社会を支えてくれるのと同時にふるさとを愛してくれる、そんな子どもが育ってくれるのではないかという思いを持つことができました。 |
| 司　　会 |  ありがとうございます。大変分かり易い認識を示していただいたと思います。この意見書は、我々の共通のふるさとだというメッセージを出していただいています。このエリアに、どのようにレイアップされていても、私たちの学校だというイメージで、この協議会も提案をまとめていただいたのだと私も思ったところであります。 |
| 委　　員 | しっかりまとめていただいたと思いました。特に4章「諏訪地域に望む学びについてと」と5章「諏訪地域の高校の将来像について」、このところは、諏訪地域がどういう地域なのかということを踏まえて、これからどういう地域をつくっていくのか、というあたりが再確認できる。その上に立って、高校をどういう風に創っていくのかは整理されていると思います。僕はずっと外にでていまして、教育に携わっていた人間なのですが、いつも根っこの部分は長野教育界、またこの諏訪地域で学んだことが、やはり根っこにずっとありました。このような機会を与えていただいて、この会に参加させていただいたのですが、やっぱり諏訪ってどういう地域なのか、どういう地域をつくっていくのだろうということがあって初めて、ここをどうするのか、子どもたちをどう育てていくのかということが見えてくるのではないでしょうか。そういう場に参加させていただいて本当に感謝しています。その中でも特に、どういう環境をつくっていくのか、どういう高校を創っていくのかは、本当に整理されていて良かったと思います。お疲れさまでした。 |
| 委　　員 | 諏訪地域という特色ある地域にある高校としてどのようなあり方が良いのかということが、良く検討されたかと思います。第1回は令和元年度の10月8日開かれました。その時はまさかこんなコロナということでこのような形態をとったり、子どもたちが学校で学べないということなど想像できませんでした。これからは学びの場についても、今まで以上にいろいろな多様性が見えてくるのではないかと思っています。今、高校を再編するというお話が幾つかでてきた訳ですが、フルモデルチェンジというお話をしたのですが、諏訪地域の高校を一丸となって新たな取組に、取り組んでいただきたいと思います。私がとても大事にしたいと思ったことは、13べージの中学生の意見です。これから将来を担っていく子どもたちが、どういう高校にして行きたいのか、どういう高校が現実的な高校なのかを示してくれました。これに沿った形で、高校の卒業生であったり、同窓会であったりと思いは強いと思いますが、スチューデントファースト、子どもたちにとって一番何が良いのかということを一番に考えて進めていただきたいと思います。ありがとうございました。 |
| 委　　員 | この協議会を通してさまざまな立場の違う皆様と、教育に対する深い思いをしっかりと語り尽くしていただいこと、これは何より一番良かったという思いです。そしてその集大成が、この冊子として形になった。これをまた読み返しながら将来の高校像についてもっと深く考えて行きたい。私は将来のことをしっかり考えた時に、今現にそれぞれの高校で一所懸命に学んでいる子ども達がいる訳です。その子どもたちが本当に希望を持って、学びたい事を学びながら学校生活を送っている、そこも大事にしながら、高校生をもっと応援していきたい。次に高校生になる小中学生に対して、キーワードとして、個別最適化の学びの実践という、一人一人の子どもの状況に応じた学びが実現できるようにする、そんな環境整備が私たちの大きな課題となってきます。そして、個別最適化の高校選択、これができるかどうかも、私たち委員に求められているところではないかと思います。これが諏訪が立つということかな。これから県教委の方から具体的なプランが示されると思いますが、どんな器を用意されるのかについてみんなで考えていきたい。 |
| 司　　会 | 各委員さんから貴重なご意見をいただきました。 |
| 委　　員 | 事務局の皆さんに感謝申し上げたい。各委員の皆さんのお話をお聞きしながら私は非常に共感できますし、高校に対して教えていただき改めて関心を持ちました。今日こうしてこの冊子をまとめられてここに至った訳ですが、限られた期限の中で、事務局の皆さんが本当に丁寧に連絡を取りながら会を進めていただきました。諏訪市教育委員会の皆さま、諏訪圏域の教育委員会、県教委の皆さま、事務局の皆さまには心から感謝申し上げます。本当にありがとうござました。 |
| 司　　会 | ありがとうございます。協議会の委員の皆さま、事務局に支えられてここまでくることができました。今回、お示しいたしました最終案、これを決定してよろしければ拍手を持って承認していただきたいと思います。　＜拍手多数＞　ただ今承認していただきました。これを最終案として決定をさせていただきます。今回承認していただいたこの最終案は、高校改革に対する諏訪地域の意見・提案として後日、長野県教育委員会に提出をしてまいりたいと考えています。ご了解をお願いいたします。それでは、本日予定をしていました議事はこれで終了いたしました。皆様ご協力ありがとうございました。 |
| 事 務 局 | 　会長、協議の進行ありがとうございました。それでは、次第の大きな5番、その他に移ります。先ほど会長よりお話がありましたが、この協議会で本日お認めいただきました、意見・提案書につきましては、この協議会を代表して、会長である諏訪市長、副会長である岡谷市長及び茅野市教育長、この3名がこの協議会を代表して来月の3月22日(月)に県の教育委員会、原山教育長へ提出をしたいと考えています。その予定で動いています。ご承知おきください。この協議会は元年の10月から協議を開始いたしまして、約1年半に渡り各委員の皆様のご協力の下で協議を重ねて参りました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。全体を通して皆様方からこの際何かありますでしょうか。 |
| 委　　員 | 県の方にお聞きしたい。各地でこのような提案をやっていますが、他地域では昨年の早い時期にしている。諏訪では全県で何番目か知りませんが、その辺の提案状況というのはどうなっているかという件と、以前の資料を見ますと、2021年3月に再編計画を確定するとあった。もう来月ですが、ここではどのように考えればよいか。そして、2030年には長野県の教育が変わるという、これがいわゆる再編ということでしょうか。ここをお聞きしたい。 |
| 県 教 委 | 皆様本当にありがとうございました。只今のご質問の件ですが、我々もご説明させていただくつもりでしたので、ちょうど良い機会ですのでここでご説明をさせていただきます。新聞紙上で扱っておりますが、再編整備計画を立てています。これにつきましては、1次ということで、旧第1通学区の飯山、旧第5通学区の佐久、旧第8通学区の上伊那、旧第9通学区の下伊那、この4地区が1次ということで案を策定し、今年の9月に案が確定したということで、この4地区につきましてはご存じのように伊那新高、小諸新高、佐久新高ということで再編するということでは次の会を催していただくことになっています。この3月末にですが2次案として出させていただきます。この2次案につきましては、昨年末までに地区の協議会をつくっていますので、その協議会から意見をいただきました、第2通学区の須坂、中野、第5通学区の上田、第10通学区の木曽、そして第8通学区の上伊那も一部調整区が残っていますので、それを含めるような形で、再編整備2次案としてお示しする予定です。この諏訪地区につきましては、2次案以降3次案という形で入ってくるものと思われます。今、委員さんからご指摘のありました、2021年3月という事でしたが、当初2030年に全県12学区全部と思っていましたが、コロナのせいで協議会がなかなか進まない地区もありますので、一年それを送りまして、2022年3月には全県の旧11学区の再編計画案をお示ししたいと思っています。それに基づきまして、第2次再編の形でこちらの予定では2030年を候補として考えています。これにつきましても、コロナの関係でわかりませんが、現在では2030年には、長野県の高校教育を変えようということで考えています。 |
| 事 務 局 | ありがとうございました。他はよろしいでしょうか。ないようですので、ここでもう一度県の高校教育課の方から、御礼の挨拶がありますのでお願いいたします。 |
| 県 教 委 | 最終回の協議会に際しまして、一言御礼を申し上げたいと思います。この7区、諏訪地域の協議会でありますが、会長の金子諏訪市長様、副会長の今井岡谷市長様、そして山田茅野教育長様始め構成員の皆様には、令和元年10月より1年半以上かけて7回会議を行っていただきました。諏訪地域の高校の将来像を考える協議会を行い、高校の将来像について熱心なご議論、ご協議をいただいたことに対して、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。また、事務局を担っていただきました、諏訪市教育委員会を始め各市町村のご担当の皆様におかれましも、協議会の運営にご尽力をいただきまして誠にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。この一年半に及ぶ協議会でございますが、この間第2回協議会からは、県立高等学校、地域産業界、中学校及び保護者、高校の同窓会など幅広い皆様、関係者から意見聴取を行っていただき、更に意見・提案の公表後、住民意見の募集を経て多くの方々のご意見を踏まえ、この意見・提案をまとめていただきました。本当にありがとうございます。県教委といたしましては、おまとめいただいたこの意見・提案を踏まえまして、旧第7通学区の再編案を今後作成検討してまいりたいと思います。その中でも、この冊子の「はじめに」にありますが、一番下の段でございます。「これらの歴史や豊かな文化、地域資源を活用しながら、新たな時代の担い手である子どもたちにとって、地域に魅力ある新たな学びが推進され、時代にふさわしい学びの場が構築されることを願い…」というような思い、願いを込められた意見・提案書、更にただ今、構成員の皆様方よりお一人お一人いただいたお言葉、この諏訪地域に対する熱い思い、更には大きな期待などをしっかり受け止めさせていただきながら、今後具体的な作業に入っていきたいと思っています。この協議会を通しまして、皆様方の高校教育についていろいろとご理解をいただけたと思います。意見・提案をいただきましたら、こちらにボールが投げられたという形でありますので、それをしっかりと受け止めながら、次の段階に進めて参りたいと思っております。本当に一年半におよぶ協議ありがとうござました。 |
| 事 務 局 | 　ありがとうございました。協議会の結びに際しまして、副会長であります今井岡谷市長さんから閉会のご挨拶をお願いします。 |
| 副 会 長 | 閉会にあたりまして、挨拶をさせていただきたいと思います。一年半におよぶ協議をしてきた中で、本日協議会としての意見・提案をまとめたところであります。これまで委員の皆様の、ご努力、ご協力に対しまして、深く感謝申し上げます。また、事務局、県の担当の皆様にも運営等ご尽力いただきましたことに深く感謝を申し上げたいと思います。そして、この意見・提案書につきましては、先程お話がありました通り、会長、副会長がこの会を代表しまして教育長の方に提出をさせていただきたいと思います。当協議会の役割といたしましては、一つの節目を迎えるわけでございますけれど、先程各委員の皆様の大変含みのあるこの地域に対する思い、提案が更に具体化していくことをね願っています。地域の将来にあるべき高校づくり、あるいはこれから本当の意味で大切な段階に入っていくのではないかなと思っているところであります。県におきましても是非、しっかりと慎重に議論されることをお願いすると共に、地元の子どもたちの期待、また他の地域からも来たいという高校づくりを目指し、地域もこれからの関係をしっかりしていかなければならないと思っています。委員の皆様には引き続きのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。希望にかなう高校づくりに大いに期待をしまして閉会の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。 |